

年病気で休職した。病気回復後、熊本県や長崎県の学校に勤務した。採集した標本 25,000 点は京都大学に納めた。そして京都大学嘱託となり、標本採集・整理にあたり、また植物分布の研究をした。タシロラン、タシロノガリヤス、*Osmanthus zentaroanus* Makino, *Cirsium tashiroi* Kitamura, *Dryopteris tashiroi* Tagawa など 10 種にあまる植物にその名を残している。ソウマシオジは田代が日本で初めて採集した植物であるが、現在は採集地のいわき市赤井岳に見出されない。

星大吉は南会津郡檜枝岐村の出身であって、尾瀬の植物を採集し、根本莞爾に提供した。1899 年 8 月 6 日尾瀬ヶ原で採集したモウセンゴケの一種は、牧野富太郎によってナガバノモウセンゴケと同定された。これは、その前年に川上滝弥がエトロフ島アトイヤ山で採集し、ナガバノモウセンゴケと命名したものであって、本州では初めての発表となった。星は 1934 年檜枝岐において、アンドンマユミを発見した。

中原源治は、福島師範学校の根本莞爾の助手となり、県内外の植物を採集し、根本の研究を助けた。1903 年吾妻山大根森で発見したハクサンジャクナゲの重弁種は、根本によって牧野富太郎に送られ、1909 年ネモトジャクナゲと命名発表された。中原は天然記念物調査のため来られた三好学を現地に案内した。1923 年この地をヤエハクサンジャクナゲ自生地として天然記念物に指定された。中原が飯豊山で採集した *Epilobium nakaharanum* Nakai アンボソアカバナ (1911) や福島市信夫山で採集した *Lathraea nakaharai* Makino ゲンジウツボ (1914) (ヤマウツボに統合された) また台湾で採集した *Peperomia nakaharai* Hayata (1911) に中原の名がつけられている。中原の採品が基準標本となっているものは、以上のほかチョウカイアザミやミヤママツムシソウなどがある。

服部保義が耶麻郡大寺で採集したカヤツリグサ科植物は、牧野富太郎が *Scirpus hattorianus* Makino イワキアブラガヤと命名した(1933 年)。そのころ鈴木貞次郎および星大吉は、これを戸ノ口原で採集しているが、その後は誰も採集していない。これは北米に自生している植物である。また服部は三春町でアラゲネザサ (ホソバアズマネザサ) *Pleiblastus hattorianus* Koidzumi (1935) を発見した。

草野俊助(1879-1962)は、相馬市出身で、東京大学理学部植物学科を卒業し、東京大学教授となった。植物病理学を専門とし、多くの業績をあげている。また通俗的な植物学知識の普及につとめた。

早田文蔵は第一高等学校の学生時代、1898 年の夏に、尾瀬平、会津駒ヶ岳、浅草岳、飯豊山、磐